

県内のプロイラーから分離された *Enterococcus*

cecorum の細菌学的解析：岡山県岡山家保家畜病性鑑

定課 難波かおり

近年、*Enterococcus cecorum*（以下EC）による鶏の化膿性脊椎炎が世界的に問題視。今回、2021～24年の県内分離EC30株を用いてPFGE（30株）、胚致死アッセイ（以下ELA、5株）、病鶏由来株で保有率が高いとされる遺伝子検出PCR（7株）を実施。PFGEバンドパターンは5つに分けられ、Ⅰ・Ⅱ型にはEC敗血症個体を含む2鶏群及び関与不明の1鶏群由来株、Ⅲ・Ⅳ型には疾病への関与不明株、Ⅴ型には化膿性脊椎炎由来株が含まれていた。ELAの胚死亡率は、PFGEⅠ・Ⅱ型の株60%、Ⅲ・Ⅳ型20%、Ⅴ型70%。PCRの結果、Ⅰ・Ⅴ型の株で病鶏由来株保有遺伝子を複数保有。県内に複数のEC菌群が浸潤しており、ELA結果から病原性の違いが示唆。PCR結果から化膿性脊椎炎に関与している病原性株が県内にも侵入して疾病を引き起こしている可能性が示唆。今後、さらに菌株を収集し、同様の調査を継続して病原性株の識別方法、有効な対策の解明につなげることが必要。